

薩摩硫黄島・硫黄岳の活動状況（2001年7月～9月）*

Recent volcanic activity at Iwodake Satsuma-Iwojima volcano

産業技術総合研究所地質調査総合センター**
京都大学防災研究所火山活動研究センター***

Geological Survey of Japan, AIST
Sakurajima Volcano Research Center, Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

1. はじめに

薩摩硫黄島においては、平成13年7月中頃から連続的な火山灰噴出を続け、7月20日22時頃から、連続的な火山性微動が観測された〔鹿児島地方気象台が平成13年7月23日に発表した火山観測情報第4号〕。この連続微動発生後の2001年7月26日および9月25日現地調査を実施したので、活動状況について報告する。

2. 噴火口

噴火口は主に南方向に伸長・拡大して長円上になっており、長径約100mに至る。噴煙はこの長円の南側から出ている。

3. 噴煙・火山灰

噴煙量は昨年11月よりも増えて数年前のレベルになっている。

連続的に火山灰を噴出している。風向きにより硫黄島の集落、海上、竹島に降灰。島民からの伝聞情報によると、硫黄島集落への降灰は、7月20日の微動開始の数日前から始まっていたらしい。

7月26日の灰は、3月までの赤っぽいものとは異なり真っ白であった。9月25日の灰は、また元のように赤茶～ピンク色に戻った。構成物は今までと同様変質した火山岩の粉碎されたものであり、新鮮なマグマ物質は含まれていない。7月の時点では、今までのrecycleされて酸化している赤っぽい噴出物ではなく、火口の伸長に伴って、珪化した山体のfreshな部分を新たに削っているために真っ白な灰が噴出しているものと思われる。

山頂火口の南縁では、柔らかな火山灰の厚さは7月には10cm以上、9月には20cm以上であった。ただし、火口縁を離れると降灰量は急激に減る。9月の時点では火口南東側にはあまり積もっていない模様。

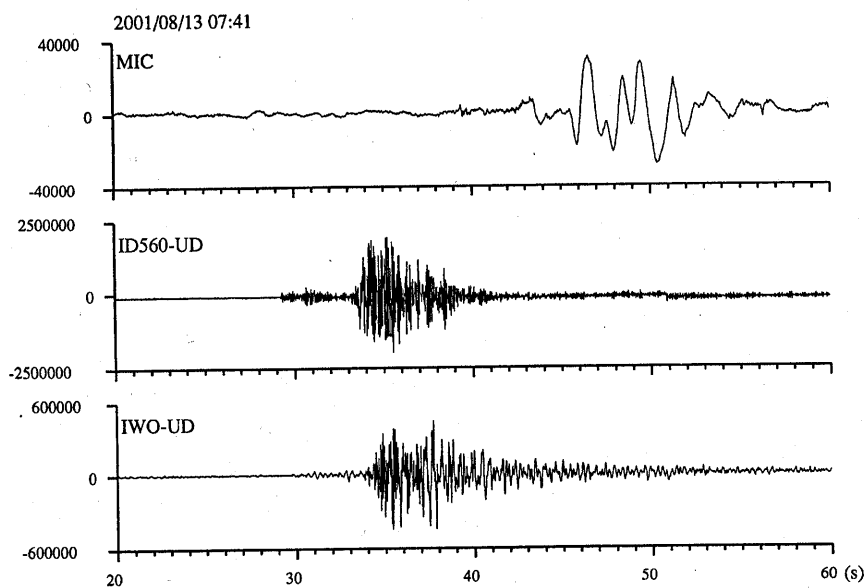
4. 爆発音

7月には火口縁にいた30分間に3回の小さな爆発音があった。また、9月にも依然として20分に1度程度の頻度で爆発音があった。また、爆発音の合間にもっと頻繁に何かが液面に落ちるような音が聞こえた。このため、京大SVOでは、空振計を設置し、8月中に1回空振を観測した（第1図）。

* Received 25 Dec., 2001

松島喜雄**・西 祐司**・井口正人***

Nobuo Matsushima, Yuji Nishi and Masato Iguchi



第1図 硫黄島において観測された8月13日7時41分の空振を伴う噴火上から京大SVO空振計IWO点（上）、GSJ広帯域地震計ID560点（中）、京大SVO速度計IWO点（下）